

様式3

群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究報告書

平成 26 年 4 月 30 日

群馬大学生体調節研究所長 殿

所属機関名 大阪大学大学院医学系研究科 細胞生物学
職 名 助教
研究代表者 國井 政孝
勤務先所在地 〒565-0871
大阪府吹田市山田丘2-2
電 話 番 号 06-6879-3211
ファックス番号 06-6879-3213
E - メ - ル mstk921@acb.med.osaka-u.ac.jp

下記により共同研究成果を報告します。

記

(課題番号: 13003)

1. 共同研究課題名	細胞の極性を制御する遺伝子の組織、個体での機能の解明			
2. 共同研究目的	細胞の極性形成・維持に重要である極性輸送に関与すると考えられている分子の組織・個体レベルでの機能を遺伝子欠損マウスの解析によって解明することを目的とする。			
3. 共同研究期間	平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日			
4. 共同研究組織				
氏 名	年齢	所属部局等	職名等	役割分担
(研究代表者) 國井 政孝	32	大阪大学医学系研究科 細胞生物学	助教	研究の実施および論文作成
(分担研究者)				
5. 群馬大学生体調節研究所 の共同研究担当教員	分野名	細胞構造	氏 名	佐藤 健

※ 次の6, 7, 8の項目は、枠幅を自由に変更できます。但し、6, 7, 8の項目全体では1頁に収めて下さい。

6. 共同研究計画

細胞内での極性輸送において輸送小胞と細胞膜との融合に必須であるとされる SNARE 蛋白質の一つである SNAP23 の個体での機能を解明するため、SNAP23 ノックアウトマウスを作製し、組織学的、生化学的解析を行う。

全身でのノックアウトマウスは胎生致死となったため、Cre-LoxP システムによる種々の組織特異的ノックアウトマウスを作製し、解析した。

7. 共同研究の成果

作製した組織特異的ノックアウトマウスのうち、Elastase-Cre による膵外分泌腺特異的ノックアウトマウスでは腺房細胞の形態に変化は見られなかったが、消化酵素を含むチモーゲン顆粒の分泌に優位な減少が認められた。このことから、SNAP23 が膵腺房細胞の頂端側からの消化酵素の分泌に必須であることが示唆された。

また、Pdx1-Cre や Insulin-Cre を用いた膵内分泌腺特異的ノックアウトマウスにおいても膵 β 細胞の形態に大きな異常は認められなかったが、 β 細胞からのインスリン顆粒の分泌が増加し、マウスの耐糖能が改善するという結果を得た。生化学的解析の結果、SNAP23 は膵 β 細胞において類縁分子である SNAP25 を阻害し、インスリン分泌に抑制的に働いていることが示唆された。

以上の結果から、SNAP23 を阻害するような薬剤があれば β 細胞からのインスリン分泌を増加させ糖尿病の治療に役立つことが予想されたため、理化学研究所との共同研究によって SNAP23 に結合する数種類の低分子化合物を同定した。これらのうちの1つにマウス膵 β 細胞株である MIN6 細胞からのインスリン分泌を増加させ、更に、個体において血中グルコース濃度を低下させる効果が認められた。

現在、これらの結果を論文にまとめ、投稿中である。

8. 共同研究成果の学会発表・研究論文発表状況

(本研究所の担当教員の氏名の記載、又はこの共同研究に基づくとの記載のある論文等。なお、論文の場合は、別刷りを1部提出してください。)

学会発表

第 118 回 日本解剖学会全国学術集会 サンポートホール高松 (ポスター)

3P-H113

國井政孝、吉村信一郎、高橋倫子、小林雅樹、今泉美香、佐藤隆史、佐藤健、永松信哉、河西晴郎、北村忠弘、原田彰宏

『膵 β 細胞からのインスリン分泌における膜融合関連分子 SNAP23 の機能の解明』